

平成28年度 第5回豊田市商業振興委員会会議録

【日 時】 平成29年3月13日月曜日 午後2時 ～ 午後4時15分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】 〈委員〉

尾碕 眞 [愛知学院大学商学部商学科教授 博士]
服部 正雄 [元トヨタ生活協同組合 特別顧問]
松永 郁也 [豊田商工会議所 常議員]
澤田 恵美子 [元豊田市消費者グループ連絡会会長]
杉田 雅子 [株式会社 杉田組 ブルーベリー事業部取締役]
大橋 宏 [豊田信用金庫 部長 中小企業診断士]
浅井 良隆 [コンサルティングオフィス アット・ドリーム]

〈事務局〉

原田 裕保 [豊田市産業部部長]
三浦 浩 [豊田市産業部商業観光課課長]
鈴木 啓介 [豊田市産業部商業観光課担当長]
鳶 和典 [豊田市産業部商業観光課主査]
成瀬 愛 [豊田市産業部商業観光課主事]

【欠席者】 河原 郁子 [とよた下町おかみさん会 平成24年度会長]

【傍聴者】 なし

【次 第】

開 会

- 1 部長あいさつ
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 商店街活性化計画について
 - ア 永覚新町商店街
 - イ 小原商工会
 - ウ 足助中央商店街
- 5 その他

【会議録（要約）】

- 1 部長あいさつ
産業部原田部長よりあいさつ
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
事務局より説明
- 3 委員長あいさつ
尾碕委員長よりあいさつ
- 4 議事
(1) 商店街活性化計画について

ア 永覚新町商店街
永覚新町商店街から資料について説明

【主な質疑応答】

委員

最近 2、3 年の売上状況はどうか。

永覚新町商店街

増加した店舗は 1 割、横ばいが 1～2 割、減少が 6～7 割。

委員

イベントも定着し、地域にも親しまれて、一体感を持って活動している。世帯層も若くて、買い回りもしていただけるエリアだが、4 割 5 割と毎年増収を続けていくのは大変だと思う。特に力をいれていくもの何か。

永覚新町商店街

個店のスキルアップに重点を置く。既存のにぎやか市、永新ゼミの事業を上手に活用できていなかった。会員が近隣の商店街以外のお店にアピールをして、もっと引き込んでいけるようなリーダーシップをとれる商店街になりたい。それが事業の充実にもつながっていくと考えている。

委員

今後、中心市街地がにぎやかになっていく。永覚新町商店街としては、近隣のお客様をいかに引き込むかが重要となる。商品構成やターゲットをどうするか、人材育成等で考えていただきたい。

委員

アンケートによると、気軽に入れる雰囲気づくりをお客様は求めている。イベントや無料のまちゼミ等、既に色々やられた上でこの結果が出ているのであれば、今後商店街がやらないといけないのは「PR」ではなくて、「アピール」ではないか。個店として気軽に入れることをもっとアピールしていかないといけない。

まちゼミは、既存客よりも新規客を呼ぶ仕掛けづくりと言われていて、リピーターになる可能性がとても高い。まちゼミについて、もっと目的目標を持つべき。

委員

商店街組織の若返りが進まないとはどういうことか。

永覚新町商店街

例えば、商店街の理事役員が父親で、若い人が出る機会が無い、父親が引退しないと入れない、と言う様な流れになっている。引退を待ってられないので、若い人を集めて座談会をし、意見を聞いたり企画をお願いしたりして、意識が高まってきている状態。

委員

世代交代を進めていく中で、もしかして息子さんや若い方の方が柔軟な発想や、知恵があったりするかもしれない。その視点を取り入れて事業承継を進めていくことで、町全体の活性化を進めていくという切り口もあると思うので、そんな取り組みをしてはどうか。

委員

32店舗中何店舗後継ぎが決まっているのか。

永覚新町商店街

約5店舗。

委員

公共機関の末野原駅もあり、トヨタ自動車の住宅もある素晴らしい環境だと思うが、5店舗以外の人はまだダメだと思っているのか。

永覚新町商店街

大型店等は、後継者云々の問題はない。32店舗の内、10店舗は跡取りが必要な店舗。会社経営の方もいるため、実際32店舗あるといっても、全部が店ではない。

委員

「WE LOVE とよた」に豊田市は力を入れている。是非そこに参加していただきたい。

委員

消費者ニーズにおいては、新鮮な食材が欲しい、サービスを提供してほしいとアンケートで出ている。そういう物が無いと消費者は来ないと思う。そんな実態をつかんで改革をすると良い。

安全で新鮮なものが安く手に入ることは大事だと思うので、そこも踏まえて対策をお願いしたい。

委員

逸品フェアの商品は、既存の商品以外でも良いのか。

永覚新町商店街

良い。

委員

消費者からの情報を得た後で行うのか、店の考えで動いていくのか。

永覚新町商店街

会員同士の中で、出している商品なのか会議の中で決めている。

委員

人材育成でITについても学ぶということだが、目標を歩行者通行量だけでなく、別の評価も加えてはどうか。

-----審議-----

委員

まちゼミは、お客様情報が取れる機会。現状、消費者ニーズに合った品揃えができているのか。まちゼミ等含めて入りやすい店舗づくりの勉強をしていただきたい。

イ 小原商工会

小原商工会から資料について説明

【主な質疑応答】

委員

特産品開発事業で、作るのはいいが、PRはどのように行ってこれだけの売上を上げていこうと考えているのか。

小原商工会

現在、商品のコンセプトは決まっているが、どういう方をお願いして、どういう物を作るか検討している段階。PR方法はまだ決まっていない。

委員

観光客は目が肥えている。他に取って代われない商品をどう作っていくかが、事業の成功に結び付いていくと思う。

桜バスでお買い物支援事業は継続事業だが、前期の計画で目標に至らなかった原因として、バス予約方法等、問題があると思われる部分をどう改善するかを具体的に考えていただきたい。

経営力向上のための人材育成研修事業は、伴走型支援をどう行うか検討していただきたい。

委員

商業集積ではないということだが、今回の事業に対して、どれぐらいの個店のお店の方が関わっているのか。

小原商工会

10店舗程度。

委員

かなり厳選された方が、事業に関わっているというのが実態か。

小原商工会

高齢で事業も積極的にやってない方もいる。

委員

75店舗もあるなら、もっと全体を巻き込んでいく仕掛けを考えていくことも必要。山間部の方々は人口減少・少子高齢化の中で、疲弊していくのはどのエリアもだが、観光で人を呼ぶのは限度があり、移住、定住を一気に進めるのは難しいならば、短期でも人が滞在する仕掛け等の検討はしているか。

小原商工会

年間通じて呼べるような仕掛けを検討しているが、なかなかアイデアが浮かばない。

委員

商業集積のある商店街ではない。商工会と加盟店の役割分担をどのようにしていくか。特に、小原地域全体を活性化させるために何か狙っていくのか、ある限られた店舗でいいのかで策が変わる。農産物だとJAとどう連携していくか、色々な役割を決めないと大変。商工会が旗振りとなるようお願いしたい。

委員

四季桜の時期は人出が多い。観光客をターゲットにした事業や、高齢者が多いので、買い物支援を行っているのは良い事だと思うが、桜バスのキャッシュバック数が年々下がってきている理由は。

小原商工会

使う業種が限られてしまっているため。本来の計画では買い物に利用していただく予定だったが、ほとんどが美容院に使われている。また、午前中は通院による利用が多く、バスが埋まっている。

委員

高齢者は車に乗るのも難しくなっていくので、良いなと思うが。

小原商工会

ヘビーユーザーも多いが、使わない方は使わない。

委員

小原の皆さんが、小原ではこれがおすすめと言えるものを作れたら良いと思う。

委員

地区の特徴に合わせたものを考えられると、全国に広がっていく。四季桜に合わせていくのも良い。

事務局

小原のあるマップにお店の写真が載っていたが、何が食べられるのかが載ってなかった。ここで何が食べられるか、料理の特徴の写真を載せた方が良い。小原は四季桜があり、まだまだ工夫する余地があるので、小原には期待している。観光協会が独立するので、ぜひ協力してやっていただきたい。

委員

商工業者 170 軒ぐらいあるうち、後を継いでいる店舗はどのぐらいか。

小原商工会

20 から 30 店舗くらい。

委員

小原で商売を営んでいく中で、商工会を頼りにしているだけではいけないと思う人たちをどんどん育成していただきたい。ニーズに合ったものを皆で出し合っ
て、効果のある事業を行ってほしい。広域でひとつの事業を展開するのは難しい
と思うが、人材育成は非常に重要なポイントになると感じた。

委員

人材育成で講演会等するのなら、業種業態で分けたマーケティング事例集の紹介等が良いと思う。

ウ 足助中央商店街

足助中央商店街から資料について説明

【主な質疑応答】

委員

地域住民にとっては必要店舗の不足、移動販売だけでは物足りないから現在集積している辺りに生鮮食品の店舗があった方がいいという要望なのか。

足助中央商店街

かつては日常買い物する店舗が 10 店舗程度あったが、現在は無くなってしまったので、そういう店舗が核となり、波及効果で周りの店でも買い物できる形が望ましい。

委員

商圈として成り立つか、出店する人がいるかどうか、地域住民のニーズに応えようとしても、ネットもあり現実には難しい。それを解決しようということか。

足助中央商店街

商店街が生き残るためには、移動販売で商店街の外に出ていくのではなく、足を運んでもらうことが大切。現在、高齢者にタブレットを渡して乗り合いの交通実証を行っているので、その中で商店街の情報を載せようとは考えている。

空き店舗対策は、現在空き家と空き店舗の情報が曖昧なので、もう少し踏み込んだ調査をしようと思っている。実際に空き店舗として貸し出せる店舗を調べたい。

委員

移動販売のエリア内の住民が生鮮食料品の店舗を用意して欲しいといってもインフラ整備が必要となり難しい。かつてのように 10 店舗程度の店舗を、という目標であるのならば、相当の誘致促進策を出さないとこの計画は難しいのではと思っている。どこかで見切りを付け、絞ってやっていく必要がある。

足助中央商店街

まずは空き店舗が使えるかどうかを調べる必要がある。そして、ターゲットを住民だけにすると、人口は更に減少していくので、そこを観光客で埋めていく。

田舎なので車が無いと生きていくのも大変だが、高齢となり免許証を返還して車に乗らない人が増えている。そういう方はなかなか外出しないので、バスの利用者をどうやって商店街に呼び込むか研究しないとイケない。

委員

街の将来を考えると、住民の買い物場所があるか、観光客をいかに引き込むかの2択になると思う。観光客をターゲットとし、日常的に買えるものが少ないとなると住民が住みにくいので、住民向けと観光客向けの両面が備わると良い。観光客は、特徴的なものがあると街にも足を運んでくれる。そういうアピールできるものが必要。

足助中央商店街

イベントの度に新商品を作り、それをPRする。そのために情報発信が重要。

委員

足助にちなんで「足」をキーワードにするのなら、「足=健康」というイメージで捉えた方がいい。観光客が足助に来ることにより、来る方も元気になる、それにより店も元気になる、また地域も元気になる、というような考え方。

ホームページを作成しても見ようと思わないと見ないので、商工会の「商人足助」等から引き込み、メールアドレスを登録してもらおうと、不特定多数の人に情報を流せるので、知るきっかけとしてはよい。ファンクラブ的な要素を用い、リピーターを増やす方法を検討してみてもは。

ホームページを作ったことに満足して終わっては意味がない。どういうキーワードで入ったか、ログ解析までやれるように工夫できれば。

委員

スタンプラリー事業は個店の売上にどう影響したか、定量的に調べているか。

足助中央商店街

スタンプは個店で買わないと押さないなので、売上に影響しているだろうが、個店によって様々である。

委員

空き店舗対策は積極的に取り組むべきだが、事業計画の検証等の伴走型支援で行うべき。中心市街地でも開業した方が1~2年でうまくいかなく事例が多々ある。このエリアで事業化することは非常に大変なので、事業が継続できるように、我々も上手に使いながら、連携しながらできればと思っている。

足助中央商店街

足助で数年営業しようと思うと、現在の観光客数では商売を続けられないので、住民と観光客の両方をターゲットにしないと。一年営業できるだけの観光客は来ないよと伝えないと。

委員

特に開業者は夢膨らんで、初期投資も相当な額になるので、失敗すると取り返しがつかないケースもある。是非連携して進めていければ。

足助中央商店街

商店街は重伝建地区なので、空き店舗対策するにも相当ハードルが高い。商店街だけでは対応できないので、市の力も借りながらやれば。

委員

足助は人情の温かい地域で、よそ者の自分が出店しても、皆が楽しみにしてくれており、まとまりがあっていいと思う。しかし、新しい方が商売をするには難しい面が多いので、何か他に収入があるようなことがあれば若い人たちも出来るのではないか。

今年の足助高校の卒業生で足助に就職する子は一人もいないとのこと。これが現実。地元で愛着を持って、就職しても残るような子を一人でも多く作ることが大切。若い子が一人でも多くこの町に残ればいいなと思う。

委員

町並みさんぽ事業は個店に足を運んでもらう事業だと思うが、もう少し具体的に聞きたい。

足助中央商店街

「見る」「体験する」「学ぶ」の3つのテーマを回しながら行う。まちゼミのようなもの。

29年度はツーリズムとよたが県の予算で旅行者を対象とした街歩きを10月から3月まで行う予定なので、それと連携したイベントが出来ればと思っている。

委員

足助は季節ごとに何か行っているイメージで頑張っていると思う。一つ一つの事業を反省しながら行っていけると良い。

市は人材育成に補助率を上げて対応するなど力を入れているが、その点についての考えは。

足助中央商店街

委員長の先生に入ってもらい、商工会と共に若い人の育成などを行ってほしい。

委員

これだけの事業があるので大変だと思うが、人材育成も頭に入れながら進められると良い。

委員

情報発信を人材育成に絡めるならば、情報の波とかどういう関わりでやるのかを計画に落とし込まないと人材育成にならないし、活用も出来ない。どこまでやるのが重要。技術は日進月歩だが、ソフトはそうではない。基礎をしっかり積まないと技術に追われて終わってしまう。

5 その他

今回の委員会をもち、2年間の任期が満了となる。退任予定の委員3名からご挨拶をいただいた。

最後に産業部長が挨拶をし、閉会した。